

令和7年度 学校関係者評価 【学校教育目標】思いやりをもち、自ら考え、意欲的に取り組む子の育成 【めざす子ども像】安心して過ごせる学校「毎日が楽しく、明日が待たれる学校」

評価項目	本年度の教育活動の目標と 評価のための具体的な指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
(1) 主体的に対象と関わり、共に高め合う子どもを育成する授業づくり	<p>主体的に対象と関わり、共に高め合う子どもの育成～複線型算数の授業づくりを通して～</p> <p>【目標】</p> <p>①主に算数科において、子どもが主体的に対象と関わる手立てを考案する。</p> <p>②子ども同士が共に高め合う手立てを学校内で交流し、授業改善を推進する。</p> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が公開授業または全体提案授業を行う。</li> <li>・算数アンケート(対象学年4～6年) (1)(4)において肯定的回答が85%以上</li> <li>(1)「自分から進んで学習に取り組もうとできましたか。」…①に関連</li> <li>(4)「授業中に友だちと考えを出し合って、よりよい考えをもつことができましたか。」…②に関連</li> <li>・教職員 教育活動アンケート(2)において肯定的回答が85パーセント以上</li> <li>(2)「あなたは授業内容の定着のために、各授業で「めあて」を明確に示し、「ふりかえり」活動を行っている。」…①に関連</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数アンケート(対象学年4～6年)</li> <li>(1)「自分から進んで学習に取り組もうとできましたか。」</li> <li>4年 53.5+37.2=90.7%</li> <li>5年 24+62=86%</li> <li>6年 32.4+64.9=97.3%</li> <li>※4年生は「何をすれば分かる。」</li> <li>※6年生は「友達と学び合おうと解決できる経験が多かった。」「分からない場合に、ヒントがあったり、人に相談できる環境があった。」→▲一部の児童は、学ぶ相手を自由に選べるというスタイルの意図を受け取れなかった。</li> <li>(4)「授業中に友だちと考えを出し合って、よりよい考えをもつことができましたか。」</li> <li>4年 32.6+60.5=93.1%</li> <li>5年 22+56=78%</li> <li>6年 37.8+56.8=94.6%</li> <li>※よりよい考えをもち、それを伝える環境が整っていれば、その考えが広がる4・6年生は、そのような児童が多く、他の児童に良い影響をもたらしているのではない。</li> <li>・教職員 教育活動アンケート(2)</li> <li>(2)「あなたは授業内容の定着のために、各授業で「めあて」を明確に示し、「ふりかえり」活動を行っている。」</li> <li>26.7+66.7=93.3%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの先生が授業のはじめに「めあて」を黒板に書くなどして児童に示しており、とても分かっていくと思う。算数は学年が上がるにつれて、理解できている子とできていない子の差が広がっていくと思うので、できない子に対しては興味をもたせ主体的に学ぶようにしていくかが課題だと感じる。主体的に学ぶためには、自分の意見を発表できる場が必要だと思うので、発言しやすい環境作りも大切だと思う。</li> <li>・4・6年生は肯定的な回答が90%以上で、5年生が90%以下なので、指導環境の違いがあるのかと思いました。職員同士でコミュニケーションをとり、指導方法や環境づくりを共有してみてはいかがでしょうか。</li> <li>・(4)において、5年生が78%で目標に達していない。授業の中で、発言しやすい環境づくりをするなどの工夫をして、多くの児童が考えや意見を進んで述べられるようにしていただきたい。</li> <li>・全ての教科において文章、言葉の意味を理解することができているのか?これにより大きく学力の差が出てくると思われる。まず、児童個人が「国語力」の大切さを知って、先生方がその「国語力」向上に向けて指導していってもらえること期待します。</li> <li>・複線型算数の授業づくりを通して分からない場合、相談やヒントの環境ができたのは有効かと思う。一方、一部の児童が「学ぶ相手を自由に選べる」というスタイルの意図を受け取れていない」現実があり、その児童への対応として、不登校予備軍を察知し、早期対策につなげる事を願いたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①発表する場の提供 一斉授業だと発言の機会が減るため、グループやペアによるアウトプットの機会を設定する。</li> <li>②教育環境の違いではなく、児童の実態の違いが結果を変えていると思われる。主体的に学ぶためのきっかけは児童によって異なる。児童の実態によって、むしろアプローチの仕方を変えた方が結果が出ると考えられる。</li> <li>③考えを述べる(アウトプット)ことに原因があるのか、インプットに原因があるのか、見定める必要がある。</li> <li>④国語力向上の方策</li> <li>・読む書くワークシートの継続</li> <li>・読み取り⇒語句の意味調べ 例文作り</li> <li>・考えを文章化する 作文 成果物</li> <li>⑤学ぶ相手を自由に選べるというスタイルの意図を受け取れていない⇒不登校のことではなく、誰と学ぶのが適切なかをメタ認知することは難しいという論点である。学ぶ人を選択することは、日々の人間関係や自身の学習到達度の2つの視点を加味して選ぶことになるので、難易度が高い学び方であるため、どのように授業に取り入れるかは、検討する必要がある。</li> </ul>
(1) 主体的に対象と関わり、共に高め合う子どもを育成する授業づくり	<p>ICTの有効活用</p> <p>【目標】 主体的・対話的で深い学びにつながるICT機器の活用を推進する。</p> <p>【指標】</p> <p>①職員アンケート3において、肯定的な回答が80%以上。</p> <p>(「あなたは児童の理解が深まるように、授業でICT機器を有効活用している。」)</p> <p>②4～6年生の算数アンケートにおいて、肯定的な回答が80%以上。</p> <p>(「ICT機器を使うと、算数の学習に役立つと感じますか?」)</p> <p>③オクリンクプラスを活用した算数の授業実践を、研修長とICT長が年間を通して実施し、他の職員も使用できるようにする。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>①肯定的回答 職員 37.5+43.8=81.3%</li> <li>4年 37.2+48.8=86%</li> <li>5年 40+56=96%</li> <li>6年 67.6+29.7=97.3%</li> <li>4・5・6年生共に、「図や文字などが大きくて見やすくなるから。」という理由が一番多かった。</li> <li>4年/59.5% 5年/72.9% 6年/63.9%</li> <li>自分の端末で見ると、図が見やすかったり、書き込んで考えることができるところが、役に立つという回答につながっている。</li> <li>③学び方を個々に選択、他者の考えを参照、他者の考えを自分の言葉で説明する、振り返りをオクリンクプラスやfigjamに打ち込むことで、全員の振り返りを見ることができると等々、ICTを使って実践できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年が進むにつれ、肯定的回答の割合も多くなっており、ICT機器が有効に活用されていることがわかる。</li> <li>・高学年のICT活用が年々発達しているように思える。</li> <li>・ICT機器は必要不可欠なものとなっており、80%以上もの先生が有効活用されていることはすばらしい。全ての授業でICT機器を活用する必要はないと思うが、活用効果の高い算数では、より活用頻度を上げていくとよいのではない。</li> <li>・ICTの導入・活用は問題ないレベルにあると思う。次のステップとして、各学年毎に児童の活用レベル能力をどこまで引き上げるかという数値目標を示すことができることよい。</li> <li>・5年生96%、6年生97.3%はICTの活用を十分に発揮しているのだと思います。家庭学習でも端末を使った学習がもっとあっていいかなと思います。</li> <li>・他者の考えを参照、他者の考えを自分の言葉で説明するという、幅広い事例を通した中での自己の選択は、ICTを活用してこそ可能となる学びだと思ふ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数では活用効果が高かったので、来年度も校内研修とリンクさせてICTの活用向上を目指す。</li> <li>・児童端末が新しくなるのを機に、来年度は持ち帰る頻度を4年生を中心に増やす予定である。家庭学習に有効に使いたい。ただ、持ち帰ることでトラブルが増えることも予想される。(タイミングばかりしていて困るというご意見をいただいたことがある)ご家庭でも見守りの協力を願いたい。</li> <li>・全国学力調査やみえスタディチェック等で、他者の考えを自分の言葉で説明する、式から考え方を説明する等の問題が出る傾向がある。引き続き、ICTを活用しながら取り組むことで、学びにつなげたい。</li> </ul>
図書館教育の充実	<p>【目標】 豊かな心を育む読書活動の推進</p> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書委員を中心に、図書室へ来る児童数が増えるような楽しい活動を、学期に1回程度計画し、実施する。</li> <li>・教師による『お話プレゼント』の時間を学期に1回設ける。</li> <li>・朝学習では、読み聞かせボランティアを活用する。</li> <li>・巡回指導員は、学年で年に1回は学習につながるような活動で活用することをすすめ、TRC作成の図書館だよりにて、国語教科書に掲載されている図書の紹介もしていく。</li> <li>・クラス毎の貸出数の状況を定期的に(月毎に)掲示し全校児童に伝える。</li> <li>・平均年間貸出数を低学年は40冊以上、高学年は30冊以上とする。</li> <li>・児童アンケート「本を読むことは好きですか。」において、肯定的な回答が70%以上とする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書委員会では、1学期に『としよかんまつり 夏!』を、2学期に『としよかんまつり 秋!』を実施し、大型絵本や紙芝居などの読み聞かせを行った。スタンプカードや、プレゼント等の実施で毎回60～70名の児童が来室した。</li> <li>○『わたしの“おすすめ本”』として全校児童が、本を紹介する掲示物を作成し、3期にわたって紹介する場所を設けた。紹介文を作成する際にはしっかりと読まないといけない、ということもあってか、学年によっては熟読してとてもわかりやすい文章を掲示することができた。本に関心をもち探す、という姿が見られ、貸出数増加につながった。</li> <li>○教師による「お話プレゼント」を、毎学期1回ずつ実施し、朝の読み聞かせでは、各担任やボランティアによる「お話プレゼント」を実施し、児童の本への興味関心を高めるきっかけとともに、多くの本を知る機会を設けることができた。</li> <li>○巡回指導員を活用し、希望学年でブックトークを行ったり、テーマに沿ったコーナーを定期的に図書室に設置したりすることができ、年中行事や季節感を味わうことにもつながった。</li> <li>○今年度の貸し出し冊数は、昨年度に比べ、12月末現在で約1割増増加した。子ども達が図書室へ足を運ぶ回数増加とともに、1回の貸し出し数を3冊に増やしたことも影響していると思われる。</li> <li>○平均年間貸出数は、12月末現在で低学年は70冊、高学年は45冊となっている。今年度の目標値としている年間貸し出し数は超えている状況にあり、年度末までの数の変化にも注目していきたい。</li> <li>▲児童アンケートにおいて、「本を読むことは好きですか。」の問いに対し、昨年度より肯定的回答が約8%減少し、約63%となり、目標の70%には及ばなかった。子どもたちのICTの活用能力が向上し、調べ学習等をインターネットで行うことが多く、各担任も意識しながら児童に本による調べ学習等を勧める場を設けているが、やはり図書室という場、さらに書籍を活用する機会がなかなか増えない。図書室への来室数は増えているものの、読書冊数増加の根本的な解決には至らないようである。国語科や総合的な学習等の学習での活用方法等を引き続き勧めていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書委員会の活動やおすすすめ本、教師によるお話プレゼントなど熱心な取組がうかがわれる。</li> <li>・毎年、この項目の達成状況がよろしくないと感じる。「読書の日」を毎学期設けて、活字に慣れるような策を講じてはどうでしょうか。</li> <li>・大人で新聞や本離れが進む世の中、地域や家庭内で啓発を望むのは難しい。学校に委ねる対策として、斬新な図書館のイメージチェンジが可能であれば企画してほしい。まちづくりの委員や保護者、ボランティアを動員し、6年生のグッドアイデアを活かした立案の実現を応援したい。</li> <li>・「としよかんまつり」の実施はとても楽しそうな活動だと思います。本の紹介文を書くことはとてもいいことだと思います。貸し出し数を増やすためにHRで10～15分程度、図書室で借りた本を読むのはどうでしょうか。</li> <li>・デジタル社会の影響か、子どもたちは文字よりも映像で理解する機会が増え、文字離れが進んでいるように感じます。このような本、本は文章力を養うことに非常に有効な物であることから、絵本でもよいので本に触れ合う機会を増やしていければと思う。人におすすすめする本を紹介するだけでなく、実際に相手に渡すのはどうか。(クラスで相手を決めて、その子のために自分が好きな本を借りる。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書委員会を中心とした活動は、図書委員である5・6年生児童の負担にならない程度の内容を引き続き充実させていき、自信をつけさせるとともに、人を喜ばせるための努力の達成感もたせたい。</li> <li>・教師によるお話プレゼントは、児童が楽しみにしているので引き続き実施していきたい。教師それぞれが選ぶ本は、その本からのメッセージ等があるものを、学年に応じて選んでいく必要がある。</li> <li>・授業時確保とICT活用の充実がさらに推進される中、朝の学習タイムやHR等に読書の時間を設定していくのは、特に4年生以上は難しいと思われる。職員会議での提案通り、授業には関係のない時間(朝の片付け後や休み時間等)に担任からの声かけで図書室へ行き、返却貸出をしてくるよう、週に1回は実施していたり、国語や社会、総合的な学習などでICT機器活用に加えて図書本からの情報収集を取り入れたらするようになる。</li> <li>・斬新な図書館のイメージチェンジについては、様々な立場の方の協力、アイデア収集等から始まり、実際に活動内容と経費等も考えて進めていく必要がある。また、図書室のイメージチェンジを進めている現場の視察なども必要かと思われる。地域のまちづくりの方々やボランティアの方々との協力で現実に実施可能な取組がなされていくのは大変嬉しいことである。しかし、「本離れが進み、啓発を望むのは難しい」と言われている家庭、保護者に何らかの影響を与えていけるような活動となるので、学校内でも複数数人が中心となって意見を出し合い、まとめていく〇〇委員会のようなものは必要と思われる。教職員数が減っていく中、可能かどうかを含めて検討していく必要がある。</li> </ul>
(2) 互いを尊重し、安心できる人間関係づくり	<p>人権を尊重する態度の育成</p> <p>【目標】 自尊感情を高め相手のことを思いやれる心の育成</p> <p>【指標】 毎月「人権の日」を設定し、人権について自分を見つめる機会を設ける。</p> <p>絵本を利用するなどの人権学習の取り組みを各クラスで月1回以上行う。</p> <p>児童アンケート「4 困っている仲間を助けることができるか」「5 いじめはどんな理由があってもしてはいけないと思うか」「6 いじめを見たり聞いたときやめるように言ったり誰かに伝えたりできるか」「9 周りの人の気持ちを考えて行動できているか」「13 自分にはよいところがあると思うか」で肯定的な回答85%以上。</p> <p>教職員の人権意識を高めるための研修を行う。年間3回以上。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権の日には、各クラスで児童たちにピンクジャツデーを意識させるための声掛けをしたり、毎月の絵本を活用した取り組みを進めたりし、様々な人権課題に触れさせることができた。また掲示の中で「加佐登いじめ防止標語」の取り組みを行い、子どもたちからいじめを防止する標語を集め、掲示した。</li> <li>○今年度も人権レポート研修を年に2回、人権ブラッシュアップ研修を1回行った。</li> <li>○児童アンケートでの肯定的な回答(前年度との比較)</li> <li>「9 周りの人の気持ちを考えて行動できているか」では96% (+0.7%)</li> <li>「13 自分にはよいところがあると思うか」では88.8% (+6.8%)</li> <li>▲児童アンケートでの肯定的な回答(前年度との比較)</li> <li>「4 困っている仲間を助けることができるか」では92% (+6.4%)</li> <li>「5 いじめはどんな理由があってもしてはいけないと思うか」では96.8% (+2.3%)</li> <li>「6 いじめを見たり聞いたときやめるように言ったり誰かに伝えたりできるか」では89.6% (-3.4%)</li> <li>これらは基準には達することができたが、前年度よりも肯定的な回答が下がってしまっていた。そのため3学期、人権フォーラムの選流を行い、学校全体でいじめ防止に対する意識を高めていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの人格形成にもとても重要なことなので、継続して取り組んでいただきたい。</li> <li>・「自分の良い所探し」等の策と共に、「〇〇さんの良い所発見!」といったゲーム感覚で人権尊重の考え方を育てていってもらいたい。</li> <li>・昨年は達成状況Bであったが、本年はAに向上しており、いじめ防止のための対応としてよいのではないかと。</li> <li>・自己肯定感が上昇しており素晴らしいと思う。「アンケート5」の肯定的な回答が減少したことは残念に思う。アンケートをとる際「何故そう思うかの」等の理由を書いてもらうようにしてはどうか。その理由がわかれば今後の参考にできると思う。</li> <li>・いじめに対する活動がよくされていると思います。児童会がとりくんでいるいじめ予防活動に今後も期待しています。いじめに対する意識が低下しているかもしれないので、再認識をさせる活動をしてみてはどうでしょうか。</li> <li>・児童は、家族、地域の人、学校職員などすべての大人から学んでいる。大人の人権意識を高める機会を継続して行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度も引き続き人権の日には、各クラスで児童たちにピンクジャツデーを意識させるための声掛けをしたり、毎月の絵本を活用した取り組みを進めたりすることで、様々な人権課題に触れさせたい。</li> <li>・児童会と一緒に「いじめ防止」など人権に関わる活動を来年度も取り組めると良い。</li> <li>・各学年によってそれぞれに合った人権学習のカリキュラムを参考に進めてほしいが、単学級が増えてきているので、学年部で一体となって進めていきたい。</li> <li>・いじめ防止月間や人権の公開授業、人権作文などの取り組みに向けて年度初めから人権意識を高める取り組みを進める。</li> <li>・職員向けの研修を今年度同様、夏休み中に取り組み、定期的な人権学習について職員で話し合える場を設けられると良い。</li> </ul>
いじめのない学校づくり	<p>【目標】 いじめを起こさない学校づくりをめざす。</p> <p>【指標】 組織的な対応と情報の共有を徹底する。児童アンケート「5いじめはどんな理由があってもしてはいけない」と考える児童100%。</p> <p>児童アンケート「6いじめを見たり聞いたときやめるように言ったり、誰かに伝えたりすることができですか」と考える児童が90%以上。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学期に一回いじめアンケートを実施し、児童の実態を把握するために努め、気になる児童には迅速に対応した。スクールライザポーターと連携し、家庭訪問や学校での見守り等、不登校(傾向)児童の対応にもあった。今年度発覚したいじめについては、素早い対応を心がけ、職員との共通理解を図った。月に1度「児童の様子」を共有する時間を設け、全職員で情報共有を行い、全職員で児童を見ていくよう現状把握を行った。</li> <li>▲児童アンケートの肯定的な回答</li> <li>「5いじめはどんな理由があってもしてはいけない」では96.8% (目標に3.2%足りず)</li> <li>「6いじめを見たり聞いたときやめるように言ったり、誰かに伝えたりすることができですか」89.6% (目標に0.4%足りず)</li> <li>全職員日々指導をしているため、原因についてはわからないが、今後もしじめはいかなる理由があったとしてもやめてはいけないということを日常的に機会をとらえ指導していきたい。いじめの未然防止に向けた取り組みはもちろんのこと、いじめの早期発見、いじめ発覚後の事実確認、及び全校で統一した指導方針の決定をすばやく行う体制のもと、複数の職員での対応を今後も行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ事案が発生した時に組織的な対応をされている。児童への継続的な指導をお願いします。</li> <li>・迅速な対応ありがとうございます。不登校になる生徒が自分の身の周りにも増えるので、少なからず不安を感じております。今後とも素早い対応のほどよろしくお願いいたします。</li> <li>・「5」の項目に否定的回答をした3.2%の児童に対しては、個別に指導・教育した方が、その子の将来にプラスになると思います。全体的な教育に加えて、個別の正しくない考え方を教えてあげてほしいと思います。</li> <li>・表面に出てこないネットでのやりとりが問題になっている。中学生になり益々炎上しないために、小学生から保護者を巻き込んだ教育を続けていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからも迅速な対応ができるように、組織的な対応をしてく。</li> <li>・不登校については、今年度から教職員がアンテナを高くして指導ができるように、以下の3点について留意していく。①休んだ理由が気になる時は電話連絡をする。②2日以上休みが続く場合は電話連絡か家庭訪問をする。③長期的に休んでいる場合は1週間に1回程度、保護者と連絡を取り合い、関係を切らないようにしていく。来年度も引き続き、不登校が生まれにくい学校体制を作っていく。</li> <li>・SNSについては、大きなトラブルに発展する前に、正しい使い方について啓発を行っていきたい。</li> </ul>

評価項目	本年度の教育活動の目標と 評価のための具体的な指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
(3) 一人ひとりに応じた指導・支援の体制づくり	組織的・継続的な個に応じた特別支援教育の工夫 【目標】個の理解を深め、それに応じた支援の方向性や支援方法を共有する 【指標】 ・該当児童の支援計画、指導計画作成を100%とする。 ・支援が必要と思われる児童の情報交流会を月に1回実施する ・必要に応じて校内支援委員会や支援会議、ケース会議を開催する。 ・外部機関と連携し、また、講師を招くなどして具体的な支援方法を還流するとともに研修会を行う。	A	○前年度からの引継ぎ事項とともに担任が観察した様子等を保護者に確認のもと、前期の到達目標や手立て等の支援計画や指導計画を作成した。後期はそれらを振り返りながら更なる手立てを考え、実施してきた。 ○支援が必要と思われる児童の様子等を各担任から報告し、全職員で情報共有する時間を定期的に設定することで、児童に対して必要な場面で適切かつきめ細かな対応を行うことができた。 ○児童の様子や、保護者とのやりとりなどを通して、必要と考えられるときにすみやかに支援委員会を開き、ケース会議や保護者との支援会議を開催してきた。特に年度初め、学期初め、長期休業の前、年度末には必ず実施し支援の方向性や方法を検討してきた。 ○外部講師を招聘し事例検討研修会の場をとれた。また、研修外部関係機関から可能な限り情報収集し、それをもとに支援方法を検討する機会をもつことができた。	・運動会に参加した時、支援該当児童が、個性に応じて見守られ、日々の成果が現れていることを、先生方の「○○さん成長した!」という嬉しさから感じとれた。今後も学校全体で育ていく姿勢を続けていきたい。 ・担任をはじめ教職員が一人一人に応じた支援・指導を行っており、きめ細やかな対応ができていると感じる。特別支援学級、通常学級それぞれで、児童がのびのびと活動できていると見受けられ、是非この体制を続けていきたい。 ・とてもよい取り組みと思う。今後も継続していただきたい。 ・全職員に情報共有を行い、また保護者とのやりとりにも真摯に向き合い、必要に応じて支援委員会を開くなど、保護者、児童に対してとてもよい環境づくりをしているなと思います。長期休業中は児童の心境が大きく変わりやすいと思うので、より注視していただければと思います。 ・学校のみでなく、支援を要する家庭との連携が大事ですので、相互の情報交換の機会を増やすことを目標にしてはどうでしょうか。	・支援学級籍の児童をはじめ、協力学級で支援が必要と思われる児童の困り感を担任が中心となって把握することを引き続き大事にしている。その際に、保護者としてしっかりと連絡をとりながら対応策を練り、進めていく。相互の情報交換の機会を増やしていけるとよい。 ・今後も児童一人ひとりの情報を丁寧に交流し、全教職員が共有していく。担任以外の教職員からの関わりへとつなげていき、教員全員の目で児童を見守っていく。
(4) 児童生徒理解を基盤とした生徒指導	組織的で統一感をもった生徒指導 【目標】統一感をもった指導がなされるよう、情報共有を徹底する。 【指標】日ごろから、同じ学年の教員で情報共有を行う。 問題事象があった場合には、学年・学年部・担当者・関係者・管理職ですばやく情報共有を行う。 職員アンケート「5 今年度の生活指導の重点『あいさつ』『トイレのスリッパをそろえる』『時間いっぱい掃除をする』について肯定的な回答が85%以上。」「6学校は問題行動が発生したとき、関係者と情報共有をして迅速に対応・指導し、解決に取んでいる」について肯定的な回答が85%以上。	B	○教職員アンケートで、アンケート5では肯定的な回答が84%で85%を下回った。アンケート6は肯定的な回答が100%だった。アンケート5については、長期休みあけに、生活指導の先生から、また管理職から必ず話をしている。今後も生活指導の重点である『あいさつ』『トイレのスリッパをそろえる』『時間いっぱい掃除をする』について意識して取り組むよう、今まで以上に全職員に声をかけ、全職員で指導していきたい。また、アンケート6については、問題が起った際、できるだけ迅速に聞き取りを行い、家庭への連絡も行うようにしている。そして、管理職や生活指導の担当と相談を行い、ともに解決していくよう動いている。教員が素早く問題を共有し行動することで、問題行動の予防につながるため、これからも意識して取り組んでいく必要がある。	・先生方も一緒に掃除をする姿など、学校全体で美化にとりくむ体制がみられる。児童の問題解決も迅速に行われているようで、地域の大きな子どもを育てているという姿勢がとてもあったかい。 ・会議等で学校に訪問する時にも、子どもたちの気持ちのいい挨拶やきれいな校内、トイレのスリッパも整っていて、教職員の方の行き届いた指導と子どもたちの健やかな成長がわかります。 ・トイレのスリッパは、いつもきれいに整理されている。 ・参観時に大きな声であいさつしてくれる児童もたくさんいました。トイレのスリッパ、校内もきれいにされていると思いました。スリッパ・掃除の指導の継続をお願いするとともに、何故出来ないかな等児童に聞いて、出来るようにする為に何をしたらいいか一緒に考えたいでしょうか。 ・「トイレのスリッパ」「時間いっぱい掃除」は出来ていると感じますが、自虐的に否定的な回答があったように思われます。これまで通りの指導を継続していただきたい。 ・元気があいさつできるのは、指導の賜物だと思う。上靴のかかとを踏んでいる子が各クラス数人いるが、安全面や身だしなみの面などから指導を要すると感じている。	・トイレスリッパや廊下での過ごし方等、児童会でできていないことを振り返り全校に発信するようにしている。今年度は生活に関わることに關しては、廊下での過ごし方について、子どもが企画した取組を行った。 ・上靴のかかとなど生活指導上の問題については、見つけ次第、全職員で声をかけるように統一した指導ができるようにしていく必要がある。
(5) 安全で安心な学びの場づくり	安全教育 【目標】主体的に安全を守ろうとする子どもの育成 【指標】自分の身は自分で守ることを意識した避難訓練を年3回実施する。 児童アンケート11「安全な学校生活を過ごすために、自分で工夫をしたり、訓練に積極的に取り組んだりしますか。」肯定的回答の児童の割合が90%以上。 □	A	○児童アンケート7、8、9全ての項目で、85%を達成することができた。 7「自分からあいさつができる」R6年度95.3%→93.6% (前年比 -1.7%) 8「時間を守る行動を意識している」R6年度95.3%→94.5 (前年比 -0.9%) 9「人の気持ちを考えて行動することができる」R6年度95.3%→96.0% (前年比 +0.7%) 今年度は、すべての項目が目標の85%よりも10ポイント程度、上回る結果となった。どの項目も、全職員で同じ方向を向いて、指導した成果と言える。あいさつ運動の様子を見ていても、前年よりもあいさつができる児童は増えたように思われる。しかし、あいさつができていない児童も多くいる。そのため、あいさつの大切さを再度伝えて、あいさつをするのが当たり前という認識が生まれるように、全職員で指導に当たりたい。さらに、学校の中はもちろんのこと、学校外でも時間を守って行動することの大切さを意識付けしていく必要があると考える。7、8、9のどの項目も「人に対して自分がどのような行動がとれるのか。」と考えられることであるため、これからも声をかけていける職員集団でいたい。	・あいさつは学校訪問した時にいつも積極的に行われていく。 ・大人でもなかなか「人の気持ちを考える」というのは難しいと思います。子どもの頃からこのように考えられる力をもてるように、継続して教育して頂きたい。 ・児童同士が相手の気持ちを考えて行動できるよう、見守りと声かけのバランスを考慮しながら、今後も指導を続けていきたい。 ・人の気持ちを考えて行動することができるが、前年比より+0.7%上がっている、児童会をはじめ、いじめなどに対する活動が数字に現れたと思います。あいさつが自分から出来ない子に対して、あいさつと同時にコミュニケーションをとるのもいいかと思います。 ・加佐登小の子どもたちは心の優しい子どもが多く、困っている子に声をかけたり世話をしあがたりしている場面をよく見かけることができうれしく思う。チャイムが鳴っても教室に戻っていない児童も見られ、時間を守ることの大切さを指導していただきたい。	・生活のきまりについては、全職員で指導にあたるように意識をしている。それでも、統一にずれがある時があったので、そのたびに加佐登小の約束や申し合わせ事項を職員同士で確認していく必要がある。 ・9「人の気持ちを考えて行動することができる」では、これからも継続的に指導を行っていきたい。
(6) 学校運営協議会を中心とした推進	安全安心な学校生活の確保 【目標】地域との連携体制の構築 【指標】保護者、学校運営協議会、まちづくり協議会、自治会等、地域へ学校からの情報をメール配信等で発信して情報共有を行ったり、協力の依頼を行ったりする。	A	○地震や火事、洪水などの災害に備えて家庭で話し合ったり、防災カルテを確認したりする児童の割合は増えてきている。R5:61.5%→R6:77.3%→R7:77.6% (児童アンケート) 避難訓練後、各学級担任からの指導が丁寧に行われていたこと、避難訓練実施毎に、災害時に備えて家庭で話し合いをするよう伝えていたことが児童の防災意識を高めることにつながった。 ○安全な学校生活を過ごすために、自分で工夫をしたり、訓練に積極的に取り組んだりする児童の割合が90.4%程度と、年度当初の指標である90%を達成した。各学級で担任の指示に従って避難をする設定で行うだけでなく、児童が自分で考えながら行動できる避難訓練に取り組む機会を取り入れるとともに、防災意識をさらに高める手立てを工夫していく必要がある。	・抜き打ちの避難訓練でも、児童全員瞬時に行動できており、すばらしいと感じた。「自分の身は自分で守る」ことをこれからもずっと指導していただきたい。 ・低学年は自らの命の守り方、中学年は命を守るための行動力の実践、高学年はそれらに加えて低・中学年へ指導や補佐ができるレベルになるよう指導していただきたいと思います。 ・突然起こる災害に備えて、児童が自分で考えながら行動できる避難訓練の方法を取り入れ、意識向上につなげてほしい。 ・自分たちで考え、工夫して行動する活動はとてもいいと思います。いつ災害が発生するか分からない中、咄嗟に行動できるので、今後とも続けてほしいです。訓練内容を保護者にも共有したら子どもとの会話もより意識が高まると思います。	・避難訓練時での放送やアラートのサイレンに合わせ、子どもたちは素早く行動できるので、これからも指導を継続していく。 ・定期的に避難訓練等を実施し、子どもたちに自分の命を自分で守る方法を考えさせ、着実に避難行動を身につけられるよう日頃から指導していく必要がある。 ・防災ノート等を活用しながら、具体的な場面をイメージし、話し合い活動を取り入れながら、防災意識の向上を図っていき、家庭にも啓発していきたい。
(7) 教職員の仕事の効率化	保護者・地域と連携した安全安心対策 【目標】地域との連携体制の構築 【指標】保護者、学校運営協議会、まちづくり協議会、自治会等、地域へ学校からの情報をメール配信等で発信して情報共有を行ったり、協力の依頼を行ったりする。	A	○年度初めに地域の見守りボランティアの方にメール登録を依頼し、毎日の下校時刻をメール配信してお知らせしている。 ○安全安心パトロール隊の方との情報交換から、児童の安全な登下校につながっている。また、見守り隊の方々による、低学年児童への交通安全に関わる出前授業等を通して、児童の交通安全への意識啓発にも努めることができた。 ○不審者情報が寄せられた時の対応について、まちづくり協議会や自治会の方々とも意見交換および情報共有を行い、今後も連携した対応ができるよう確認することができた。 ・これからも地域の方々との情報交換を密にして、安全・安心な学び場づくりに努めていきたい。	・地域・保護者との連携は上手くできていると感じる。様々な情報をお互いが共有できる体制をこれからも継続していただきたい。 ・地域とタイアップした活動ができている。 ・まちづくり協議会は、各自治会長も幹事として組織されており、子ども達や地域の方々への安全安心に関わる意識が高いので、情報提供していただくことで、協力してもらえることも多くなるので、引き続き、情報共有をお願いします。 ・tetoruをはじめ、不審者、サルの日撃情報をすぐ発信してくれているので、連携がしっかりとれていると感じます。PTAとして、子どもを守る家をもつ子どもたちに認識してもらえるようにしていきたいです。 ・年度初めに、学校方針を保護者・地域関係者と共有して、それぞれに協力してもらいたいことを学校側から発信していてもよいと思います。それに対してできることはお願いし、出来ないことは今後の策を考えていく方法でいかでしょうか。 ・メディアがかなりの情報発信をしている。日々各地で起こる災害情報を家庭内の話題に載せるよう保護者に啓発していただきたい。	今後も児童の安全を確保するために、見守りに参加していただけるよう継続して地域へ働きかけていくと共に、子どもを守る家についても引き続き協力いただけるように働きかけていく。また「学校だより」等を通して、災害に対する備え等の情報についても発信し、啓発を進めていく。Tetoruやマチコムを活用し、不審者やサルの日撃情報等、正確かつ迅速な情報発信を行う。
(8) 学校運営協議会での協議に基づく改善	学校運営協議会での協議に基づく改善 【目標】協議内容の職員・保護者・地域への発信と具体的な取組を共有する。 【指標】学校運営協議会各回で話し合われた内容を職員にも周知し、「学校運営協議会だより」を学校内外に発行する。 職員への周知率100%、保護者への周知率65%以上とする。	A	○学校運営協議会で出された意見をもとに、教育環境の整備など学校運営の改善に生かすことができた。 ○学校運営協議会やその活動の周知率 R5 : 58.4%→R6 : 62.4%→R7 : 65.4% (昨年度比+3%) ○学校運営協議会後、「学校運営協議会だより」を発行し、協議会での熟議の内容をお知らせしている。「学校運営協議会だより」「学校だより」とも、保護者へのメール配信だけでなく、地域への回覧も行っている。これらの取り組みの継続もあり、年々、学校運営協議会の認知度も少しずつ広がり、本年度は目標の65%を達成することができた。これに甘んずることなく、今後も周知啓発に努めていきたい。	・大変努力されていると思います。継続していくことに期待します。 ・学校運営協議会で出た問題に対して早急に対応がなされている。 ・学校運営協議会のメンバーが学校内の様子を知り、学校と地域が共に子どもを育てている取り組みを会議で伝えている。また「学校だより」の回覧も継続してほしい。 ・学校運営協議会で出された意見で、運動場にできたへこみ部分をすぐに対応してもらっていたので、子ども達に安全な環境づくりがされていると感じました。 ・協議会の存在認知度が65%を達成できたのは各種たよりの発行が大きいと感じており感謝したい。今後は協議会の存在意義や会議での検討議題についても、より認知してもらえようになればと思う。 ・地域への回覧などで周知を図っていただいている成果が出ている。無理のない範囲で継続してほしい。	今後も「学校だより」「学校運営協議会だより」の地域への回覧の継続や、PTA役員会・地区委員会等を通して取組の様子を紹介するなどしながら、少しでも学校運営協議会の周知率がアップするように地道な活動を継続していく。
(9) 地域との連携	地域の教育力の活用 【目標】学校ボランティア活用の推進 【指標】学習支援ボランティア・読み聞かせボランティアの活用場を昨年度より広げる。また、ボランティアの活用方法を構築する。	B	○昨年度から継続して、学校からの依頼を伝える方法としを確立して、地域コーディネーターと連携し、学習ボランティアを活用することができた。 ○読み聞かせボランティアについては、毎学期活用することができた。1・2年生は毎週読み聞かせを行っていたが、3・6年生は学期に1〜2回程度行っていた。 ▲学年が上がるにつれて、教科が増え、同時に学習活動も増えてくるため、朝学の時間を削って読み聞かせボランティアを活用する機会を設定することが難しい。 昨年度は年間112回読み聞かせを行っていただいたが、今年度は年間47回と半分近く減少してしまった。毎学期に1回、図書を取り組みで水曜日にお話プレゼント(教員の読み聞かせ)を行ったことを考えると少しは補うことができているが、回数は昨年度と比較すると足りていない。学級数が減少していることが読み聞かせボランティアを活用する機会が減少していることにも繋がっているのではないかと考えられる。 ▲学習ボランティアは学級数減に伴い、活用する機会が減少傾向にある。 ○活用する場面は例年通り、調理実習や町探検でボランティアさんに引率していただき、教師とともに見守り等を行っていただいた。また、今年度はプール指導において、特に教師の手が足りない学年(1・2・3年)を中心に学習ボランティアさんに入っていた。	・「地域学習」と銘打って、地元博士に身近な地域のことを話してもらうなど、子どもたちが地元に興味を持ってもらう策などを仕掛けていってもらえれば、地域が盛り上がると思います。 ・ボランティアの機会を通して子どもたちと触れ合う時間はとても楽しい。ただ持ち手、時間調整が難しいボランティアのために、できる限り早い依頼をお願いしたい。 ・ボランティアの活動機会が減少したことは非常に残念である。教職員の減少に伴い負担が増えていることもあり、ボランティアで対応できる業務の開拓を進めてみてはどうか。	・児童が自分の住んでいる地域のことについてボランティアさんからお話を聞いて、知ることができるのはとても素敵なことだと考える。今後も児童が地元に興味を持ち、自分の住む町や地区のことをどんどん好きになってほしいと思う。 ・今後授業でボランティアさんを依頼する場合、依頼する日時や人数等、詳細が分かり次第、すぐに依頼をお願いし、たくさんボランティアさんに参加していただくことができるようにする。 ・教職員の減少に伴い、教職員1人1人の業務の負担が多くなっていることは現状としてあるため、教職員の負担を減らすとともに、ボランティアさんに学校での様々な活動に参加していただくことができるよう、ボランティアさんに対応していただける業務は来年度以降、お願いできるかどうかを学校全体で協議していきたい。
(10) 業務効率化	総勤務時間の縮減 【目標】業務の効率化を行い、QOLを推進する。 【指標】教職員全員の時間外労働時間を全員が月平均30時間以内とする。月2回の定時退校日を設置する。(定時退校率95%以上)。時間設定60分以内の会議(職員会議も含む)の達成割合を90%以上とする。	B	○12月までの平均時間外労働時間 R5 : 20.3h→R6 : 18.8h→R7 : 17.3h (昨年度比-1.5h) ▲定時退校日での定時退校率 R5 : 99.8%→R6 : 95.6%→R7 : 92.1% (昨年度比-3.5%) ▲放課後会議60分以内終了率 R5 : 97.6%→R6 : 100%→R7 : 95.7% (昨年度比-4.3%) ・業務内容や行事等の見直し及びスクールサポートスタッフの活用、ICT機器の効果的な活用等を通して、平均時間外労働時間については、本年度も減少することができた。 ・その一方で、学級数減に伴う教職員数の減少により、一人ひとりが受け持つ校務の量は増加傾向にある。今後も業務内容や行事等を見直しと共に、スクールサポートスタッフやボランティアの活用を推進するなどして、さらに働き方改革を進めていく必要がある。	・継続して策を講じるしかないと思います。職員から捨てる仕事を出してもらい、管理職でその仕事をどうするかを考えることだと思います。 ・外部委託ができる所を洗い出し、地域にもボランティアの応援を求め、元気で授業ができるよう時間外労働の軽減に努めてください。 ・平均時間外労働が年々少なくなっている事は取り組みの成果が出ていると思います。しなくいい作業を教員にヒアリングして、作業軽減につながれば時間短縮になると思います。 ・児童の減少に伴い、学級の減少、教職員一人の負担が増えてしまうことは仕方のないことではあるが、例えば学年ごとの活動のみでなく、2学年合わせての活動などを積極的に取り入れてみてはどうか。	・校務の内容や会議の持ち方、学校行事のあり方など業務の見直しを継続すると共に、ICT等を効果的に活用したり、スクールサポートスタッフの活用を推進したりすることで、今後も総勤務時間の縮減に努めていく。また、ボランティアとの連携及び活用も推進していく。